

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人事業計画から事業所目標、部署目標を策定、毎月の部署会議内で、目標進捗状況を確認することで、状況を共通認識している。	同左	事業所独自の理念の他に、1年ごとに事業所としての目標、グループホームとしての目標を定め職員の目につく場所に掲示している。理念を基に利用者の現況を確認し、職員と話し合い目標を決めている。行動目標を定めることで、職員自身の振り返りやニーズを具体化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	併設デイサービスと協働して、地域ボランティアをお招きし、地域との交流を図っている。また、デイサービスご利用者との交流することにより、昔からの顔なじみとの交流も図っている。	同左	隣近所に住宅がないため、意識的にデイサービス利用者や隣地のランド利用者との交流に努めている。また、多種のボランティアの来訪も月1回は計画され、地域の福祉祭りや地域行事などにも積極的に参加している。利用者がボランティアと一緒に衣装を付けダンスに加わるなど楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種研修を通じて認知症への理解を深めるように努めている。また、広報誌を活用して、認知症や感染症等の情報をタイムリーに提供している。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の状況をお伝えすると同時に、ご家族が不安に思っている事の吸い上げに努めている。また、そこで頂いた意見を会議録を通じ、職員へ展開している。	同左	2か月に1回、開催している。事業所からの現況の報告・行政担当者からの情報提供や説明の後、メンバーからの意見・質問を受けている。家族から食事の献立や毎日の様子をを知りたいなどの要望があり献立表やたよりを郵送している。寝たきりの利用者の入浴希望にもすぐに対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	計画作成担当者を通じ、実情を情報共有している。	同左	事業所として行政担当者に日常の様子を知ってもらい共通理解を深めていけるよう積極的に情報交換に努めている。困難事例や入居状況などを相互に相談・情報提供など行っている。認知症サポーター養成講座に職員が参加し、協力し認知症の理解に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ、やってはいけないことを共有、日々のケアに活かしている。	同左	研修委員会が中心になり年3回の接遇研修を行い、身体拘束の対象となる行為について理解を深めている。スピーチロックについても、思わず使ってしまった言葉についても気づいた時は職員同士が注意し合っている。利用者の状態を常に理解することで行動を抑えることのないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を通じ、虐待と思われる行為への認識を深め、職員同士で牽制しながら、ケアに取り組んでいる。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて、制度等を理解し、情報共有することにより、知識の向上に努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正があった時には、説明会を開催している。また、契約時には、重要事項説明書やリスク説明を十分に説明し、同意を得ている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施することにより、ご意見を頂き、その対応策を策定。それを掲示することにより外部者への周知を行っている。	同左	年1回、家族アンケートを実施している。また、家族会や運営推進会議の場でも、意見・要望を聞いている。出された意見は職員と検討しそれを反映している。出された意見、そのことに対する対応は事業所内に掲示・公開している。面会時には必ず日頃の様子を伝え要望を汲み取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員会議、部署会議を月に1回開催し、意見を聞く機会を設けているほか、半期に一度の個人目標進捗状況確認面談でも意見をもらう機会を設け、都度反映している。	同左	半期に1回、個人目標の振り返りを含め、管理者がヒヤリングを行っている。月毎の職員会議でも職員意見を聞く機会がある。利用者の様子やケア方法についての意見要望は、日々管理者が聞いており、すぐに対応している。入浴が困難な利用者のためシャワーチェアの要望などがあり直ぐに反映した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標進捗状況確認面談を実施、意見を吸い上げて、就業環境向上を目指している。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加の促すことによる研修への参加。個人目標進捗状況確認面談を通じた力量把握に努めている。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	百葉の会のスケールを活かした交換研修を行っている。また、職能研修による横のつながりを構築している。	同左		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や、バックグラウンドを調査し、日常の会話の中に活かしている。また、その中で、その方が不安に思っている事などを聞き出すように努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談、アセスメントにてご家族との関係づくりに努めている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談後、その方に本当に必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスを含め助言している。	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことを回想するような話題作りを行う中で、意見を頂き、行事等に反映している。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に変化があった場合は、計画作成担当者及びリーダーよりご家族にお伝えし、ご家族の協力も得ながら、お客様を支援している。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、地域ボランティアをお招きすることで、顔なじみの方々と会話する機会を得ている。	同左	事業所は地域の特性を理解しており、利用者が馴染みの人と触れ合える場として地域行事には積極的に参加している。地域行事は町役場から情報を確認している。利用者のこれまでの生活の中で培った人間関係や馴染みの場所を把握し、それに向けた支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話や関係が円満になるように会話の中に職員が入って支援している。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談に乗れる体制をとっている。また、在宅復帰された方については、定期的に状況確認をしている。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様と会話をする中で、行きたいところや食べたいものを聞き、実現に努めている。	同左	入居時の情報を基に、日々の暮らしの中での会話で気づいたことをケア記録に記載している。利用者の担当職員を決めていることもあり個々に接する機会が多く、職員は意志を表現しない利用者の思いも汲み取っている。利用者の行きたい場所、食べたいものなどの希望は部署会議で検討し実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談の際、ご本人やご家族から聴取するほか、ご入居後、会話の中から拾い出している。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議内や申し送りノート、ケア記録を活用した情報共有をリアルタイムで行っている。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、訪問看護師、ご家族、計画作成担当者、必要に応じて主治医を交えて会議を行っている。	同左	入居時に本人・家族の希望や生活背景を反映した介護計画を作成する。3か月ごとに担当職員を中心にモニタリングし、家族、必要な場合は医師、訪問看護師の意見を聞き見直している。現状に変化があればその都度介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や申し送り簿に気づきや対応策を記入し、職員間で共有している。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせた支援に努めている。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のとの交流を推進している。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのなじみの医師との関係を尊重し、支援している。	同左	本人・家族の希望する医師の診療を受けている。グループホームへの往診医師は2か所の医療機関から1か月に1回、往診している。家族が対応して受診する利用者には医療情報を書面で渡し返信をもらっている。歯科は往診にて治療を受け、その他の専門科への受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師と併設デイサービス看護師との情報共有に努めている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院相談窓口や担当看護師と密に連携している。また、退院時には、担当者会議を開催している。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルへの進行が考えられる際は、主治医や訪問看護師、ご家族を交えて会議を行っている。	同左	入居時に看取りについて説明し書面で確認している。実際に重度化した場合には、繰り返し話し合いを持ち同意書で再度の確認をしている。希望があれば家族の付き添いなども可能で、職員配置も適切に行っている。年1回のターミナル研修を行っている。学習を通して職員の精神的負担や心理面への配慮もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の普通救命講習の実施と事故発生時対応マニュアルに基づいた勉強会の開催している。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や勉強会を実施している。	同左	2か月に1回、地震、火災、水害を想定した訓練を行っている。他に夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。訓練には地域消防団、消防署、警察署などの協力を得て初期消火、避難経路を確認し訓練している。先の障害施設での事件を受け防犯カメラを設置したことは職員の安心に繋がっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自らが受けたいと思う医療と福祉の創造を念頭に置き、お客様の立場に立ち、対応している。	同左	職員は「自分が嫌だと感ずることをしない」ことを心掛けている。特にトイレでのケアや入浴、居室への入室の際はプライバシーや誇りを傷つけない声かけに努めている。外部講師を招いた接遇研修も行い具体的な事例を使い学んでいる。個人情報に関する書類は事務室で厳重に保管してある。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム百葉南部の郷	外部評価		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いや希望を聞き出せるようにしている。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、その日その日のお客様の希望に沿った支援をしている。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣服を選定してもらい、必要に応じて着脱介助をしている。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の重度化により準備は難しくなっているが、片付け等は一緒にして頂いている。	同左	朝食、夕食はホーム内で調理している。昼食はご飯・汁物のみ調理し副食は併設デイサービスから届けられる。後片付けは利用者・職員がいつしよに行っている。利用者の希望献立は誕生会を兼ねて提供している。職員も同じ物を同じテーブルを囲み、家庭的な献立を楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握できている。必要に応じて声掛けしている。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排泄の声掛けにより、おむつやパットの使用を減らしている。	同左	排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄パターンを把握し適切に排泄支援を行っている。的確なトイレ誘導をすることでオムツやパットの使用量を減らしている。各居室にトイレが設備されており、利用者一人ひとりの排泄時間を優先できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の把握をする中で、必要な支援を個別で行っている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様のご要望を聞き出しながら、ご入浴頂いている。	同左	入浴の準備は毎日しており、午前に入浴か午後入浴かも希望に沿っている。入浴を嫌う利用者には、声を掛ける職員を変えたりタイミングを見ながら誘っている。ゆず湯など季節を感じることもできる工夫をしている。シャンプーなどの備品も事業所の用意した物でも個人の好みの物でも自由に使っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて声掛けはしているが、基本としてご本人のリズムで休息して頂いている。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を基に職員間で情報共有し、間違いない服薬支援をしている。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限りのことを職員と協働して携わって頂いている。また、生活歴を活かした役割をしていただく事で、張り合いに繋げている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は年間計画に沿って行っている。また、運営推進会議などを通じて、ご家族も含めた外出支援への協力を呼び掛けている。	同左	2か月に1回の外出行事は、イチゴ狩り、花見、植物園など遠方に出かけている。日常的には散歩やドライブなど個別の支援も行い、外気浴やベランダでのおしゃべりの時間などを設けている。計画的な外出行事は家族にも知らせ参加協力を呼びかけ、家族との関係継続をも目指した働きかけを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避の為、預かり金は廃止しており、すべてを立て替え金処理している。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化により、やり取りが難しくなっているが、お客様からの希望があった場合また、ご家族からの連絡があった際は、支援している。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の創作物を飾り季節を感じて頂くほか、必要に応じて温度湿度の管理をしている。	同左	温度、湿度に配慮しており快適な環境を作っている。量敷きのスペースは利用者を取り込んだ洗濯物をたたんだり、腰かけて会話を楽しむ場所になっている。キッチン是对面式で利用者の様子が分かり会話も弾んでいる。食材を刻む音、調理の臭いなど食欲が湧く。壁には貼り絵、行事の写真などが飾られ、季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況や希望により、居室と共用の空間を使い分けている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたタンスや仏壇をお持ち込みいただき、なじみの物に囲まれた空間で過ごしていただくよう、配慮している。	同左	ベッド、カーテン、クーラーが備え付けである。トイレ、洗面台が居室内にあることは排泄の自立、プライバシー確保に繋がっている。各居室は一人ひとりの個性に合わせて整えられ、使い慣れたタンス、イスなどが置かれている。位牌や、写真、自作の作品など心落ち着く空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の設置物は、お客様の身体の状況を鑑み、動線を配慮し、設置している。	同左		